

平成 18 年 4 月 28 日

6 号機タービン建屋におけるトリチウム検出の調査結果について

定期検査中の 6 号機において、平成 18 年 1 月 26 日以降、タービン建屋地下 1 階に設置されている給水加熱器ドレンポンプ*¹ 3 台の点検を実施したところ、当該ポンプが収納されているポンプバレル（鉄製容器）を収めたピット（鉄製容器）内に水が溜まっていることを確認いたしました。

このため、それぞれの溜まり水について水質分析を行ったところ、当該ポンプバレル（A）および（C）のピット内の水から、トリチウム*²が検出されたことから、調査を実施することといたしました。

なお、6 号機タービン建屋周囲に敷設されている排水設備*³の水の分析において、トリチウム等の放射性物質は検出されていないことから、外部への放射能の影響はないものと考えております。

（平成 18 年 1 月 30 日お知らせ済み）

調査の結果、当該ポンプが収納されているポンプバレルからは漏えいのないことを確認いたしました。また、ピット内の溜まり水については排水処理を行い、その後、ピット内へ湧き水の浸入がないことおよびピットに異常のないことを確認いたしました。

トリチウムが検出された原因は、過去の当該ポンプ点検時の接続配管取り外し作業において、配管内の残水（復水）の飛散防止用の養生が不十分であったことから、トリチウムを含む復水が当該ポンプ架台付近に飛散し、その水がポンプ架台とポンプバレルの縁部との隙間からピット内へ混入したものと推定いたしました。

今後の給水加熱器ドレンポンプ点検においては、残水の飛散防止の養生を確実に行うとともに、飛散した残水がピット内に混入しないよう床面の養生を確実に行うことといたします。

以 上

* 1 給水加熱器ドレンポンプ

給水加熱器で発生する凝縮水を復水系統に回収するためのポンプであり、A・B・Cと3台設置されている。

* 2 トリチウム

水素の仲間地球上のどこにでもある放射性物質で、原子炉の中でも発生している。

・自然界の海水のトリチウム濃度 約 5×10^{-4} ベクレル/cm³

・今回検出された水のトリチウム濃度

Aピット：約 1.5×10^{-1} ベクレル/cm³

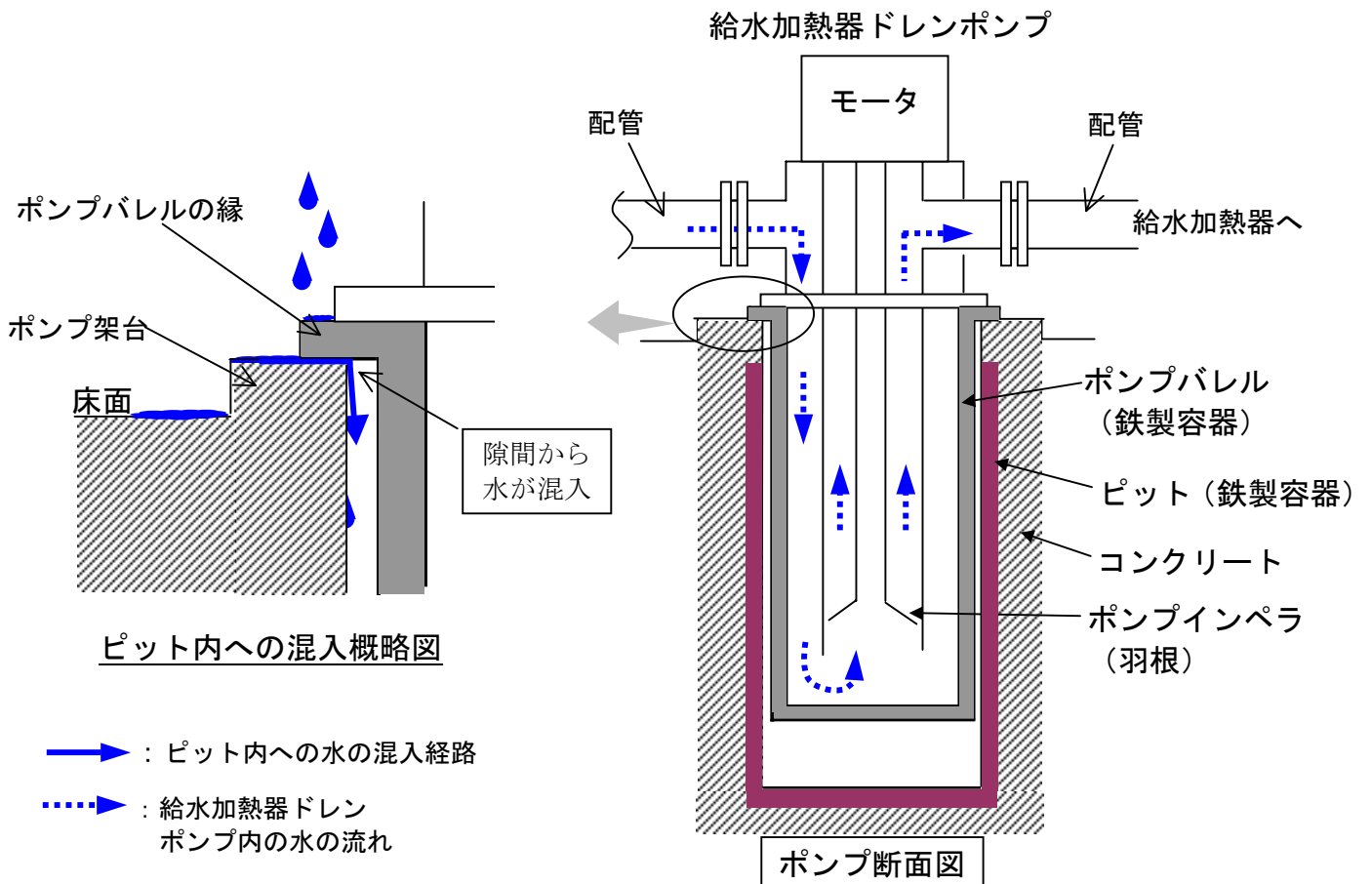
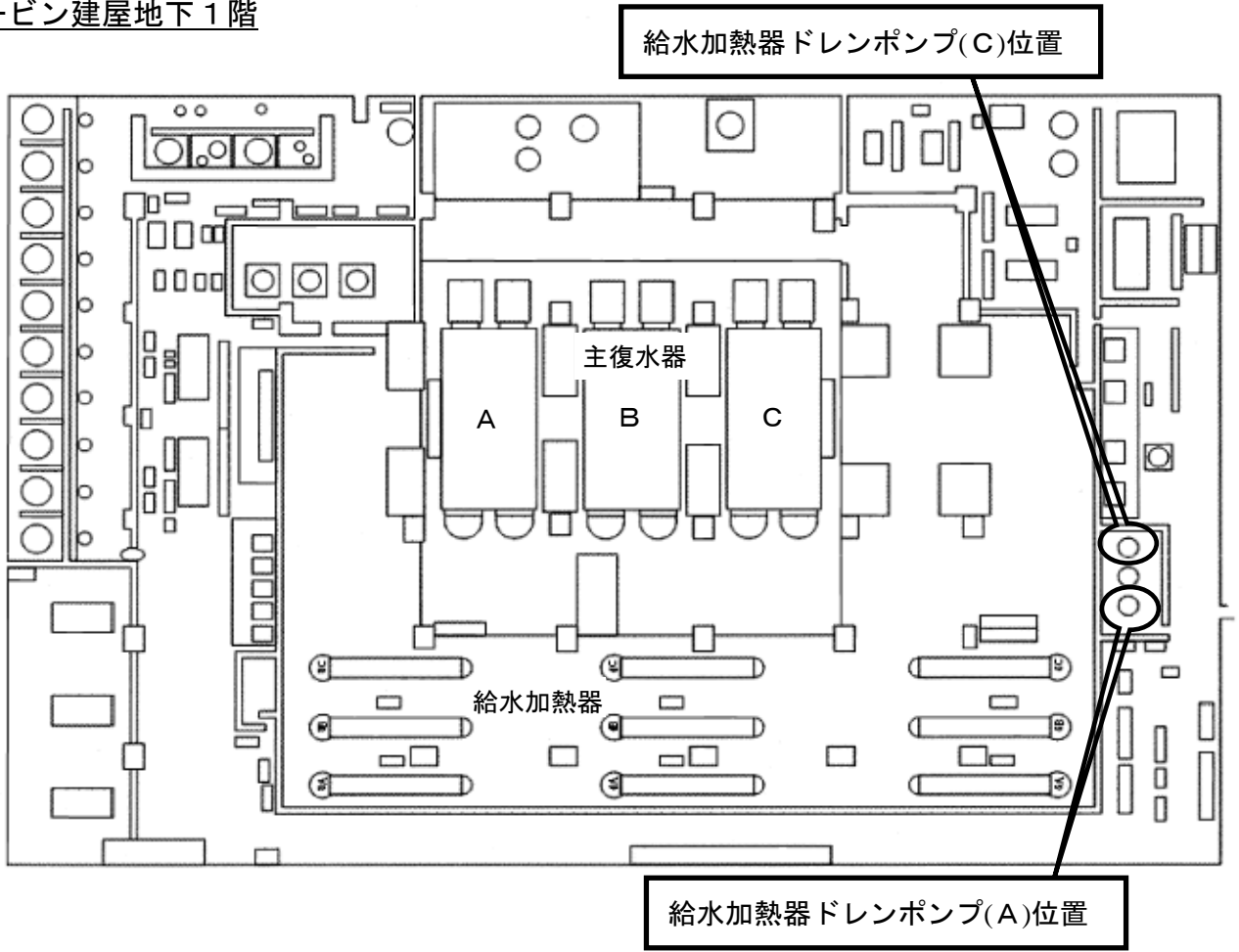
Bピット：検出されず

Cピット：約 2.2×10^{-1} ベクレル/cm³

* 3 排水設備

各建屋に過剰な水圧がかからないよう、湧き水をくみ上げるための設備で、タービン建屋や原子炉建屋などの周囲に設置している。

タービン建屋地下1階



6号機タービン建屋給水加熱器ドレンポンプ概略図